

2026年 6月 浜松聖書集会のご案内

(時間：午前10時～正午)

- 6月 7日 (日) 集会 (クリエート浜松 54号室)
司会：永井 徹
聖書講話：ガラテヤの信徒への手紙 1章1～5節
「ガラテヤ書の5W1H」 「挨拶」 水戸 潔

- 6月14日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会：生江 扶左子
聖書講話：マタイによる福音音 25章1～13節
「十人のおとめの譬えから学ぶ」 小田 弘平

- 6月28日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会：溝口 春江
聖書講義：マタイによる福音書 4章12～25節
「私について来なさい 人間をとる漁師にしよう」 武井 陽一

自分の十字架を負いて従え

溝口 正

キリストは、自ら十字架に生命を捨て、その血によりて、私たちの罪を贖い給うた。それゆえ、私たちはゆるされ、神の御前に罪なき者と認められた。私たちは、自分の罪の責任を負って神の刑罰を受ける必要はなくなった。心の底から罪を悔い改め、イエスの十字架を仰ぐ者を、神はこの上なく喜び給う。主は、「子よ、心安かれ、汝の罪ゆるされたり」と、十字架の上から告げ、私たちを感謝と喜びのうちに生かし給う。

ただ、罪ゆるされた私たちは、自分を捨て、自分の十字架を負いて、キリストに従うことが求められる。そのとき、私たちはいささかの苦難を受ける。私たちは、自分を十字架につけて自ら死ぬことは、できそうもないし、してはいけないことである。死はキリストが背負って下さった。そして復活し給うた。私たちは復活のキリストに従うことによって生かされることが求められている。

こうして生かれながら、聖霊に促されて、言わねばならぬこと、しなければならぬこと、耐えねばならぬことは、そのとおりにしなければならぬ。自分を捨て、自分の十字架を負いて、キリストに従うとは、それ以上でも、それ以下でもないであろう。主は耐えられぬ十字架を私たちに負わせ給うことはない。気負いすぎて勇み足にならぬように注意したいと思う。

(『復活』第301号 1991年10月)